

愛別町義務教育学校基本計画に関する説明会

日時：令和6年4月30日（火） 午後6時30分～午後7時40分

場所：愛別町農村環境改善センター 多目的ホール

<次第4 質疑応答の記録>

(1) 義務教育学校開設にあたって次の6点について質問したい。

- ① 9年間一貫した義務教育学校のデメリットがあれば教えてほしい。
- ② 義務教育学校に移行するにあたり、児童生徒は不安を抱くと思われるが、特別支援学級在籍児童生徒のその不安はひとしおだと思われる。その不安への対応策について教えてほしい。
- ③ 義務教育学校になった場合のPTA組織や活動はどのようなのだろうか？
- ④ 学校給食ではなくスクールランチを継続すると理解しているがそれでいいか？ 校舎建設の出費に伴い、スクールランチ予算に不足が生じ保護者負担が生じることはないか？
- ⑤ 新校舎建設に併せてグラウンド整備工事を行う予定かどうか質問する。
- ⑥ 現在の校舎をそのまま使いながら新校舎を建設するとのことだが、新校舎が完成した後は現在の校舎は取り壊すのか質問する。工事を進めるにあたっては、安全性を十分に確保していただきたい。

① 先行事例からはデメリットの報告はほとんどない。ただ、現行の小中学校独立型の場合、それぞれの校種で最上級生を経験するが義務教育学校になると最上級生の経験は1回になる。この機会減少がデメリットと言えるかもしれない。しかし、このデメリットを解消するために、節目の教育活動を工夫することを今後の開校準備委員会で協議したい。また、一度決めたらそれで終わりではなく、成果や課題を検証しながら取組をブラッシュアップしていくことも大切だと考えている。

② 児童生徒の不安への対応については、今後の開校準備委員会の中で十分に協議を深めていきたい。

③ PTA組織や活動の在り方については、まだ情報をもっていない状況である。今後、情報収集に努めていきたい。

④ 学校給食については、施設建設等の設備投資、調理員の確保、アレルギー対応等に課題が多いため、スクールランチを継続する方向性である。また、校舎建設の出費に伴うスクールランチの予算不足については、そうならないように進めていきたい。

⑤ 現在のグラウンドは水はけが悪く表土も相当量減ってしまっているため、暗渠工事を含めたグラウンドの整備も行う予定である。

⑥ 新校舎建設後は、現在の校舎を取り壊し、駐車場を整備する予定である。安全性を十分に確保した上で、すべての工事を執り行うよう業者と綿密な連携を図っていきたい。

※（教育長より）道教委では「がくえんネット」を開設し義務教育学校間の課題や困り感などを共有する仕組みが構築されている。近い将来ここに参加することも考えている。また、開校にあたっては、教員配置定数を超えた加配をいただくことも考えている。

【参考資料】

<2020-12-01 付北海道通信記事より部分抜粋>

義務教育学校の連携強化 がくえんネット開始 道教委 情報共有し質向上

道教委は、本年度から義務教育学校を対象とした学園ネットワークコミュニティ研究実践事業「がくえんネット」を開始する。各学校の課題や困り感などを共有できる仕組みとして、クラウド型グループウェアを活用。広域分散型の本道で学校間の行き来や情報交換が難しいことから、オンライン上で数回の情報共有会や、必要なデータの共有を図る情報掲示板などを設置し、義務教育学校のさらなる教育の質の向上を目指すコミュニティの構築を図る。

道内には現在、11校の義務教育学校が設置されている。義務教育学校ならではの課題や困り感などについて共有したくても、北海道が広域ということもあり、日常的に義務教育学校間を行き来したり、情報交換したりすることが困難な状況にある。

そのため道教委は、義務教育学校間の連携をより密にし、日常的に意見交換できるネットワークの構築について提案。円滑な課題解決や教育の質の向上を図ることを目的に、Google社の「Gsuite」を活用したがくえんネットを開設する。（以下略）

(2) 小中一貫教育は、人間関係が変化する機会が少なくなることに懸念を感じているため、個人的には好きではない。(感想)

(教育長より) 自分も以前はそうのように思っていた。しかし、多様な教員との触れ合いが増えるということを大きな利点としておさえたい。今後の開校準備委員会において、子どもたちの成長の節目で、自身の成長を実感できるような教育活動の工夫について、協議を重ねていきたい。